

## 震災から学んだこと 〜熱心から本気へ〜

10月14日、黒潮町民大学の防災講演会で、語り部K OBE1995代表の田村勝太郎さんから、震災と学校を主なテーマとして、阪神・淡路大震災の実体験から学んだ知恵など、貴重なお話を伺いました。講演の内容は次のとおりです。



講師の田村勝太郎さん

### 家の倒壊、そして避難所へ

当時、小学校の教師だった私は、母親と2人で過ごしていた木造2階建ての自宅が震災により全壊し、1階で寝ていた母親が瓦礫に埋もれ、近所の人の協力を得ながら数時間かけて助け出した。その後、近所の人

が布団や衣類を貸してくれたことが最初の忘れられない出来事である。

近くの小学校へ行き避難生活となったが、息子さんと娘さんを亡くしたご夫婦や店が潰れてしまった方などの話を聞き、命があることが何よりなんだと、家を失った不安が吹き飛んだ。

### 避難所の生活と運営

地震の3日後、自転車を借りて約5時間かけ、勤務先だった小学校へ向かった。その途中で建物の倒壊した様子や手向けられた花の多さにこの地震の凄まじさを改めて感じた。学校には被災者約800人が避難しており、教職員4名と5・6年生10名が中心となって避難所を運営していた。

その中で、この地区は高齢者の多い町であり、避難生活に疲れを感じている方々が多く見られ、私は避難者がよりよい避難生活を送るために、運動場の一角に無料の喫茶コーナーを開いた。配分のあった物資の中からインスタントコーヒーや紅

茶を使い、児童たちも自主的に手伝ってくれた。「子どもの声を聞くだけで元気が出る」と多くの方々から声をいただき、やはり子どもたちの元気がみんなを笑顔に変えてくれると感動した。

他にも、全盲の方が職員室で無料マッサージをしてくれたり、近所の作業所に通う方々が運動場で焼き芋を作ってくれたり、みんなより良い生活を目指すという素晴らしい光景をたくさん見ることができた。

### 今、考えておくこと

防災に熱心な人は増えていますが、本気で考えることが必要。私の防災の原点は、あの日に照らし合わせて通用するかを考えること。それぞれが自分のいる場所や生活の中で、いろんな場面を想定しながら、自分なりに本気で工夫した防災に取り組んでほしいと思う。

阪神・淡路大震災の教訓をふまえ、来る南海地震に対して何をすべきか、それぞれに考え、減災に向けてできることから備えていきましょう。

## 蜷川分団が優勝！ — 幡多中央地区消防連合会総合訓練 —

11月8日に伊田漁港で開催された平成21年度幡多中央地区消防連合会総合訓練に、四万十市と黒潮町管内の消防署員と消防団員が一同に会し、実践型放水競技（ホンブ車の部8チーム・小型ホンブの部24チーム）を実施しました。

本訓練は、消防技術の向上と士気の高揚を図り、もって消防活動の進歩充実に寄与することを目的に行われており、黒潮町消防団の皆さんは日頃の訓練の成果を発揮し、小型ポンプの部では蜷川分団が見事優勝するという活躍を見せました。

消防団員の皆さん、本当にお疲れさまでした。今後も地域の安心安全を担う要として研鑽されますようお願いします。

### ◆成績◆

#### 【小型ポンプの部】

1位：黒潮町消防団蜷川分団、2位：四万十市消防団中筋分団、3位：同津野川分団

#### 【ポンプ自動車の部】

1位：消防署、2位：四万十市消防団下田分団、3位：同川崎分団



小型ポンプの部で優勝した蜷川分団の放水競技